

## 赤糯の水稻新品種「さつま赤もち」の育成

若松謙一・○園田純也・田中明男<sup>1)</sup>・鮫島陽人<sup>2)</sup>  
 (鹿児島農総セ・<sup>1)</sup>大隅地域振興局・<sup>2)</sup>鹿児島農加研指セ)

### 【目的】

暖地で栽培可能な赤米品種として「紅染めもち」が育成されているが、本県普通期では早生に属し、登熟期間の温度が高くなるため赤色がやや淡くなる欠点がある。そこで鹿児島県の普通期栽培地帯に適した玄米の着色が優れる赤糯品種「さつま赤もち」を育成したのでその特性を報告する。

### 【来歴および育成経過】

「さつま赤もち」は、2001年に鹿児島県農業試験場（現農業開発総合センター）において、晩生、赤糯を目標に、晩生、良質糯の「鹿児島糯9号」を母、「01-F2-517（ベニコマン/鹿児島糯9号）F2」を父として人工交配を行った組合せに由来する。2001年冬にF1をガラス温室で世代促進し、2003年にF2世代で熟期および玄米色で選抜し、同年冬にガラス温室で選抜株別に世代促進を行った。2003年のF4世代から系統栽培により選抜と固定を図った。2005年（F6）に「KG赤285」の系統番号を付し、特性検定試験および生産力検定試験に供試した。2007年からは「鹿児島赤糯37号」の地方系統名で現地試験にも供試し、適応性を検討した。その結果、均一性および安定性を有することを確認して、2008年12月に育成を完了（F9）し、2009年3月に鹿児島県の適品種に採用された。

### 【主要特性】

「紅染めもち」と比較して、稈長は5 cm短く、穂長は同程度、穂数はやや少なく、一穂粒数は多い。草型は“編穂重型”である。籾の芒は“多”，長さは“中”，穎色は“赤淡紫”，ふ先色は“赤褐色”である。稈の太さおよび剛柔は、ともに“中”である。

「紅染めもち」と比較して出穂期は10日，成熟期は11日遅い“晩生”に属する。脱粒性は「紅染

めもち」「さつま白もち」に比べて脱粒しにくい“難”，穂発芽性は“中”である。いもち病真性抵抗性遺伝子“*Pita-2*”を持つと推定され，現在の菌のレースではいもち病は発生しない。白葉枯病抵抗性は“中”である。

玄米の形状は「紅染めもち」に比べて粒厚が薄くやや小粒である。千粒重は軽い。収量性は「紅染めもち」に比べて優れる。

餅の硬化特性は「さつま白もち」より硬いが、「クスタマモチ」より軟らかい。

玄米表面の果皮にプロアントシアニジンが蓄積して，ラジカル消去活性が高く，玄米は赤色を呈する。

おこわ，餅菓子など加工品原料の他，混米（ブレンド）用としての需要拡大が期待される。

### 【留意点】

早植えや早刈りは玄米の赤色がやや淡くなる要因となるため避ける。一般米に混入しないよう，乾燥機，籾摺機等を別にするほか，毎年同一ほ場で栽培することが望ましい。翌年別品種を栽培する場合は漏生籾に注意する。

表1 「さつま赤もち」の特性概要

| 品種名                   | さつま赤もち | 紅染めもち | さつま白もち |
|-----------------------|--------|-------|--------|
| 移植期（月日）               | 6.13   | 6.13  | 6.13   |
| 出穂期（月日）               | 9.01   | 8.22  | 9.04   |
| 成熟期（月日）               | 10.13  | 10.02 | 10.17  |
| 稈長（cm）                | 78     | 83    | 90     |
| 穂長（cm）                | 20.1   | 19.9  | 19.8   |
| 穂数（本/m <sup>2</sup> ） | 315    | 334   | 302    |
| 脱粒性                   | 難      | やや難   | 中      |
| 倒伏程度（無:0～甚:5）         | 0.3    | 0.7   | 0.3    |
| 稈の剛柔                  | 中      | 中     | やや剛    |
| 葉いもち（0～10）            | 0      | 0     | 0      |
| 穂いもち（0～10）            | 0      | 0     | 0      |
| 白葉枯                   | 中      | 弱     | 中      |
| 玄米重（kg/a）             | 49.6   | 43.4  | 48.9   |
| 同上標準比（%）              | 114    | 100   | 113    |
| 玄米千粒重（g）              | 19.9   | 21.1  | 19.4   |
| 一穂粒数                  | 91.7   | 69.5  | 97.8   |
| 登熟歩合（%）               | 82.8   | 81.3  | 89.3   |

2006～2008の平均，一穂粒数と登熟歩合は2008のデータ

表2 玄米の色調とDPPHラジカル消去活性（2008年）

| 品種名        | 玄米の色調<br>ハンター値 |      |      | DPPHラジカル消去活性<br>（ $\mu$ mol Trolox相当量<br>/100g乾物重） | プロアントシアニジン<br>（カテキン相当量）<br>（mg/100g乾物重） |
|------------|----------------|------|------|--|---|
|            | L              | a    | b    |  |   |
| さつま赤もち     | 36.0           | 15.1 | 15.9 | 2,140  | 350                                     |
| 紅染めもち（比較）  | 36.0           | 15.5 | 15.7 | 2,050  | 351                                     |
| ヒノヒカリ（比較）  | 51.8           | 4.0  | 15.7 | 233  | —                                       |
| クスタマモチ（比較） | 64.9           | 3.0  | 16.3 | 257  | —                                       |

注）L:明度，a:赤色度（+赤色，-緑色），b:黄色度（+黄色，-青色）